

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分  
 【発行日】平成 26 年 7 月 10 日 (2014.7.10)

【公開番号】特開 2013-90508 (P2013-90508A)  
 【公開日】平成 25 年 5 月 13 日 (2013.5.13)  
 【年通号数】公開・登録公報 2013-023  
 【出願番号】特願 2011-230950 (P2011-230950)  
 【国際特許分類】

H 0 2 G 3/04 (2006.01)

B 6 0 R 16/02 (2006.01)

H 0 1 B 7/00 (2006.01)

【F I】

H 0 2 G 3/04 J

B 6 0 R 16/02 6 2 3 U

H 0 1 B 7/00 3 0 1

【手続補正書】  
 【提出日】平成 26 年 5 月 23 日 (2014.5.23)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 0 3  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 0 3】

特許文献 1 に開示のコルゲートチューブでは、スリットを挟む両端部の一方側にロック突起が形成されている。そして、スリットを閉じると、前記ロック突起と前記両端部の他方側の閉壁とが係合して、スリットが閉鎖状態にロックされる。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 2 9  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 2 9】

このコルゲートチューブ 2 0 は、コルゲートチューブ本体部 2 1 と、複数の第 1 延出片 3 0 と、複数の第 2 延出片 4 0 とを備えており、全体としてスリット S を有する筒状に形成されている。このコルゲートチューブ 2 0 は、例えば、溶融した樹脂を筒状に押し出し、これをバキューム成形或はブロー成形等によって所定の金型に押付けることによって形成される。このため、コルゲートチューブ 2 0 は、後述する環状凸部 2 2 及び環状凹部 2 4 を含むコルゲートチューブ本体部 2 1、複数の第 1 延出片 3 0 及び複数の第 2 延出片 4 0 を形成する各部分において同一厚みに形成されている。

【手続補正 3】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 3 8  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 3 8】

また、複数の第 1 延出片 3 0 と複数の第 2 延出片 4 0 のうち上記フラット片 3 0 A に形成されたもの以外の少なくとも一つ、即ち、ここでは、第 2 延出片 4 0 の全ては、ロック突部 4 2 B を有するロック片 4 0 B に形成されている（本実施形態では、第 2 延出片 4 0

とロック片 40B とは同一箇所を示すことになる)。また、上記スリット S を挟む両側縁部のうち上記各ロック片 40B に対向する部分は、当該ロック片 40B を係止可能な被係止部 46B に形成されている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 17

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 17】

